



# 前南進路だより

R7・第30号 3月25日発行

## 1、令和8年度に向けて…

昨日、終業式・離任式が行われ、令和7年度も終わりを迎えます。今年度は、SAHに関連して『主体性』を高めるために、進路指導において『セルフマネジメント能力』の育成・『探究活動』の充実・希望者による長期休業中の『補習』などを企画しました。また、学習面においても、両親や先生たちから「勉強をなさい」と言われてから行う学習と、自己の進路実現のために『主体的』に行う学習では、成果に大きな差がでます。1年生は文理選択による教育課程（授業）が2年次より始まり、2年生は科目選択による受験科目に特化した授業が3年次より始まります。終業式において、「自信と過信は紙一重」と述べさせていただきました。日々の学習を継続し、受験本番に向け過信することなく自信を持って臨んでほしいと思います。令和8年度に向けて、進路だより・第26号に掲載させていただいた【4つのプロセス】を参考に、自分自身の力を客観的視点で見つめ直してみましょう。そして、下記を参考にしながら、自分自身の志望校合格に向けた学習計画を立ててみましょう。

### (1) 一般選抜 ※ 螢雪時代 参照

#### 【4～8月 基礎力養成期間①】

① 志望校の入試条件や過去問を確認 → 入試科目・配点や合格最低点、出題傾向を調べる  
※ **私立大の難化**のため、国公立大への受験も視野に入れたい。そのため、科目をしぼることは極力避けたい。特に、国語（漢文）は、多くの私立大で受験科目として不要である。しかし、多くの国公立大の受験科目として必要となる。（詳細は、要項にて確認）

② 模試や入試のスケジュールを確認  
※ 2027年度（令和9年度）入試の日程

● 1月16日・17日	大学入学共通テスト
● 1月下旬～	私立大一般選抜
● 2月25日～	国公立大前期日程試験
● 3月8日～	公立大中期日程
● 3月12日～	国公立大後期日程試験

次年度の3年生の模試は、1学期に進研共テ模試（6月）・進研記述模試（7月）。夏休みには、全統共テ模試（8月）・全統記述模試（8月・希望者）を予定しております。詳細は、後日お示しします。

③ **2年生までの授業内容を総復習、苦手科目・分野の基礎を整理**（4月～1学期中）

※ 1学期中、遅くとも夏休み前半（7月まで）に終わっておきたい。大学入学共通テストの出題範囲は、2年生までの授業内容が多くの割合を占めている。そして、苦手科目の分野をしっかりと把握することや、国公立大の受験においては共テの得点率〇〇%必要となることから、苦手な科目については最低限必要な得点を設定しておきたい。

④ 毎日の学習習慣を確立する → 学習時間量調査（クラッシー）の入力を徹底

※ 受験は長丁場である。1日の学習リズムを固定し、学習内容を記録（＝可視化）すると学習習慣の確立につながる。まずは、入試本番のスタート位置にしっかり立つことを意識したい。

## 【夏休み 基礎力養成期間②】

- ① 教科書レベルの基礎を定着
- ② 苦手科目・分野を克服（＝最低限必要な得点がとれる）
- ③ 教科書章末～入試基礎レベルの問題演習 → 学校で配布された問題集を活用
- ④ 共通テスト用問題集で出題形式になれる → 模試の活用（復習の徹底）

## 【9～12月 応用力養成期間】

- ① **入試レベルの問題演習を本格スタート** → 赤本・模試・記述対策  
※ 入試問題を解くための応用力・思考力を養いたい。特に、国公立大の2次（個別）試験対策を始めておきたい。共通テスト後からでは、期間が短く十分な対策時間がとれない。この時期に対策を1度行い、共通テスト後にもう1度行うことが理想である。多くの大学で、記述問題が出題されるため、採点基準や解答法などについても確認をしておきたい。
- ② **模試を受験して到達度を確認**（～12月） → やりっぱなし×、模試を有効活用  
※ 受験後の振り返りと復習の徹底。できなかった問題は、必ず次にできることが重要。この積み重ねが、得点アップにつながる。
- ③ 模試で発見した弱点を重点補強（～12月）  
※ 理科・社会の学習内容（教科書）が終了するのは、11月頃である。12月～1月にかけて、共通テスト演習等の対策を行い、完成するのは共通テスト本番直前であることを確認しておく。理科・社会の得点は、本番直前まで伸びることを念頭におく。

## 【12～1月 実戦力養成期間①】

- ① **到達度に応じて演習をレベルアップ**
- ② **共通テスト対策を計画的に進める** → 授業や補習等を活用
- ③ 教科書や問題集で弱点を再確認 → 問題集は新しいものではなく、学校で配布されたものや使用していたもので確認
- ④ 共通テスト実践演習 → 過去問や予想問題パックを使って、本番同様の条件  
※ 時間配分を意識すること。1つの問題に時間を使いすぎると、最後まで終わらなくなることも。正確に自己採点を行うことも重要。

## 【共通テスト後 実戦力養成期間②】

- ① **受験校の過去問に取り組む**（～各試験） → 併願校も含む・十分に演習できるよう計画的に  
※ 10～15年分ぐらいの過去問に取り組む。国公立大については、共通テスト+2次（個別）試験の得点で合否が決まる。共通テストの得点をふまえ、合格最低点まで何点必要なのかを意識しながら学習をすすめる。
- ② **記述答案の添削指導を受ける** → 採点基準や解答法などを再確認  
※ 先生方に指導を受けることが重要。自分では正しいと思っていなくても、必要事項が記入されていないと減点・不正解になることも。
- ③ 中期・後期日程の過去問に取り組む → 最後まであきらめない  
※ 志願時の倍率と、実質倍率は大きく異なる。2次（個別）試験の配点が高ければ、逆転も可能である。

1年間の学習計画のポイントとなります。特に赤字部分が、重要となりますので確認をお願いします。